

移動市長室

筑紫野市青少年指導員会 ―地域で見守る子どもたちの未来―



通算105回目となる移動市長室を、11月25日(水)に生涯学習センターで開催し、筑紫野市青少年指導員会の会員12人と懇談を行いました。

地域に根差した見守り活動

筑紫野市青少年指導員会(指導員会)は、平成4年に発足した、青少年の非行防止と健全育成を目的に活動する団体です。小学校区ごとに5人程度が配置されており、令和2年度



あいさつする萩尾会長



は54人の指導員がそれぞれの地域と密接に連携しながら、子どもたちの登下校の見守りや防犯パトロールなどを行っています。

学校や警察、市内商業施設なども情報共有を行いながら、子どもたちの現状把握に努めている指導員会。「未来の筑紫野市をつくる子どもたちを地域ぐるみで見守っています」と話します。

子どもたちの成長を感じるとき

長く活動していると、子どもたち

に顔を覚えてもらうこともしばしばあるという指導員の皆さん。「成人式での見守り活動中に、新成人から「あのときはありがとう」と声をかけられたときは感無量でした」と印象的な出来事を振り返りました。

筑紫小学校区で27年間行われてきたフットベースボール大会は、指導員会が中心となって開催しています。目標に向かう子どもたちのエネルギーを間近に見てきた指導員は、「やってよかった」と思いを語りました。

環境の変化に対応

以前は、夜間の外出や未成年喫煙などに対応することが多かったという指導員会。しかし、近年はそういった非行は減少傾向にあるのに対し、SNSなどに起因する事件など目に見えにくい問題が増加しているといえます。

「今までの指導方法だけに頼れない」と、子どもたちを取り巻く状況を知るため、指導員会ではさまざまな研修を実施。地域全体で子どもを守る知識を備えようと、PTAなどにも参加を呼びかけ、学習の機会を提供しています。



成人式で新成人と言葉を交わす指導員(右)

青少年指導員として

今年度から、10人が新しく指導員となりました。しかし、今年は感染症の影響で総会をはじめとした各種活動ができず、何をしていたかわからない状況が続いていたそうです。そこで、初の試みとして会全体で新人研修を行うことに。指導員の活動目的などを整理する中で、役員にとっても自分たちの役割を再確認す

る機会となったそうです。

「私たちの活動が、ふるさと筑紫野で子どもたちが豊かに健やかに育つ一助になれば。この思いは会の立ち上げから変わることはありません」と力強く話す会長の萩尾義彦さん。環境の変化に対応しながら、子どもたちのため、今できることに取り組んでいくという指導員会の意志が伝わってきました。

参加者の感想

・会員の生の声を市長に聞いていただけで、大変意義深い会になったと思います。激励の言葉をありがとうございます。ありがとうございました。

・市長が私たちに期待してくださっていることが分かったので、他の指導員に伝えて、これからも頑張っていきたいと思えます。

藤田市長の一言

お話をお聞きして、皆さんが青少年の健全育成に真剣に取り組んでいらっしやる様子が伝わってきました。皆さんの真心を込めた見守りや指導が、将来の日本を背負う子どもたちを育てていただいている、大変貴重な活動であると感じました。

子どもたちの健全育成には、学校教育だけでなく、社会教育も非常に重要になってくるだろうと思っております。このような素晴らしい活動していただいている指導員会の皆さんに心から感謝を申し上げますとともに、行政として、できる限りのご支援をしていきたいと思えます。ありがとうございます。

